

## あしよろ・ハードサポート通信

これからいよいよ1番牧草の収穫を迎えます。今年こそは天候に恵まれて、良質な粗飼料をたくさん収穫できることを願っています。

今回は蹄病の一つである趾皮膚炎（DD）の話題です。

### ◆ 趾皮膚炎（DD）について

DDは伝染性の疾病であり、トレポネーマ属菌が原因菌と考えられています。罹患部位としては右の写真のように蹄の「かかと」の間に発生することが多いです。

DDは「イボ」や「イチゴ」などと呼ばれるように、進行状況によってイボ状や、赤いイチゴのような外観を呈します。後肢に多く発生する傾向があり、病状が進むと牛も非常に強い痛みを感じ、重度の跛行を示します。



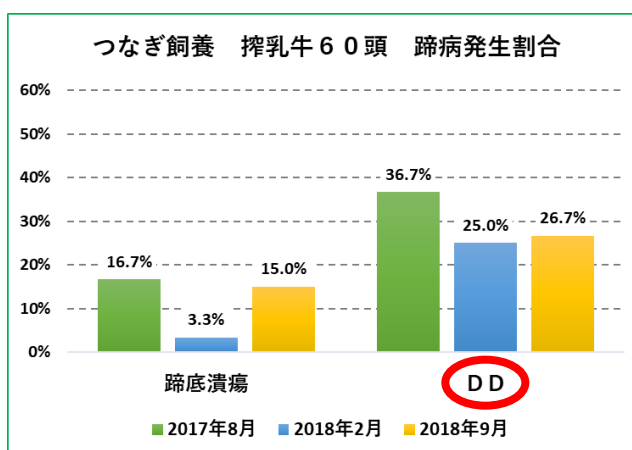
初期症状のDD

### ◆ つなぎ飼養で発生するケースも

DDは伝染性なので、フリーストール飼養ではつなぎ飼養と比べると伝搬が早いとされています。しかし、つなぎ飼養でも安心してはいけません。右の図はつなぎ飼養のA牧場における蹄病発生割合の推移ですが、蹄底潰瘍と比べるとDDが多く確認されています。

この牧場では乾乳牛がフリーバーン飼養なので、そこで感染牛からの伝搬があったのかもしれませんが。また育成牛を公共牧場に預託しており、そこで感染した可能性もあります。

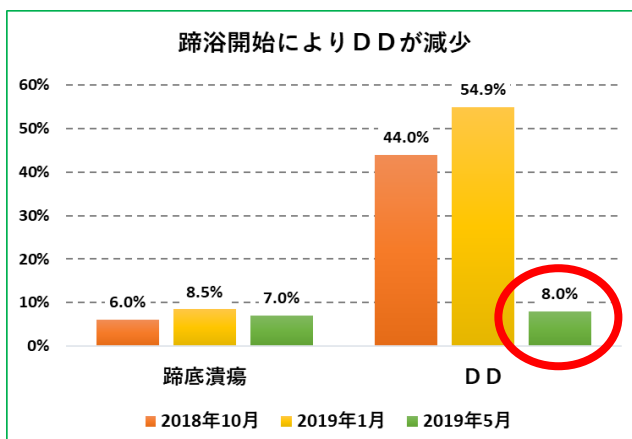
この他にも既にDDを罹患している初産牛を外部から導入したり、過密飼養、パドックの泥濘などもDDの感染拡大要因として考えられます。



◆ 原因菌を蹄に定着させないことが大事

フリーストール飼養では、フットバスへ薬液を投入して蹄浴をさせることが一番のDD予防方法になります。副蹄の上までしっかりと薬液に浸漬させましょう。

右の図はフリーストール飼養のB牧場における蹄病発生割合の推移です。元々はDD罹患牛が多かったのですが、2019年2月より毎週、3日連続の蹄浴を行ったところ、DD罹患牛が減少しました。



つなぎ飼養では蹄浴ができませんが、蹄のかかと部分に薬液を噴霧したり、ジェル状の薬剤を塗布することはDDの予防に効果的です。もちろん、牛床は清潔で乾燥した状態が望ましいです。

また、蹄が伸びすぎると蹄が後ろに傾き、かかと部分が糞尿に接しやすくなります。適切な頻度できちんと削蹄を行うこともDDの予防になります。



薬液を泡状にした蹄浴

◆ DDを蔓延させないために

DDに罹患することによって乳生産量や、繁殖成績に大きく悪影響を及ぼすことが報告されています。またDDに罹患した牛が痛みを感じ、跛行して蹄への負重が不均一になると、蹄底潰瘍のリスクも高まります。

DDを牛群に蔓延させないためには、清潔な飼養環境の整備や適切な削蹄を行い、罹患牛は早期に発見して速やかに処置を行うことが大切です。(市川雷太)



病状が進行したDD

- ・ 昨年9月に2級認定牛削蹄師の試験を受け合格しました。修行を重ねて、今後は本格的に蹄処置のお手伝いを行っていきます。
- ・ 「魁！銀河塾」と「酪農女性勉強会」は7月に開催予定です。詳細は後日FAXにてご連絡します。

